

朗和基督教會(報) 第六百三十四號
 六月七日

發行主任 白石清
 每週水曜日發行

○今週の務務
 「五九」のゆら
 罪を悔改めて
 に悔改めて
 心を静ませよ
 (行三一、九)

○聖日禮拜順序

六月七日 午後二時 教会堂
 司會 平原 中校

頌 樂 (五二)

招洋友主禱 (五二)

聖書拜讀 (五二)

祈禱 (五二)

讚美歌 (二七三)

「聖」の禱り (五二)

祈禱 (五二)

頌 樂 (五二)

報 告 (五二)

頌 樂 (五二)

祈禱 (五二)

頌 樂 (五二)

祈禱 (五二)

頌 樂 (五二)

祈禱 (五二)

頌 樂 (五二)

○諸集會案内

○教会臨時役員會 教会
 十日 禮拜直後(午後三時半)

○傳道轉運 教会
 十日 午後七時半

○司會者 白石 牧師
 手原 中校

「自由と戒備」

○牧師會訓會 教会
 十一日(月) 午後二時

○婦人宣教會

十二日(水) 午後二時半 両会館
 司會者 東野 夫人

○聖書研究會 教会事務所
 十二日(水) 午後七時半

講義 柿原 牧師
 尚子 敬節師(司會) 同会人 師が休
 暇より敬節セラレ、テ福音一冊休
 講イタス。

○祈禱會(五日) 夜七時
 教会堂 指導者 平原 中校

○預言者エリシヤ

柿原 正次

今より二千八百四十年前カガンの地方に欲鐘ありし時、多くの預言者等エリシヤの前に集た時エリシヤ其僕に命じて大なる登りて其妻と煮させ、一人の僕野狐の妻と事を知り下切りて其の中に入れ、人々彼れんとする時其妻を見て大に驚き叫びて、隣村の人を谷の中に死を求らす者ありといひて、得食はせりしかば、エリシヤ粉を取り、その中に投入し、その妻は消へて色くすり、人々食して、何の害もなし、其のつた、亦或人初穂のパンと甘の大麥のパン(餅)を持来たので、エリシヤ其の人々に分與せし、曰く、憐れむ人々の人々に如何行して與ふべきかと、エリシヤ曰く、エホバ斯く曰く給ふ、彼等食して尚餘すべからん、予は予は之を毀せり、前に供へたは皆食して餘す、エホバの言ひ如し、以上の記事は列王記下四一三八節以下である、神孫は此記事を以て何ぞ我等に教へんといふ給ふを考へて見、我々の考へる度では、大釜は教會にて、其は福音の模型である野の毒瓜は異端の教である、エリシヤの釜の中に投入し、粉は純かなる福音にて死を求らす異端の害を打消し、教會を深めるといふ預言である、エホバのエリシヤに依りて給ひし僅かのパンは四人分の食糧であつたが、其の少量のパンは百人の食糧に餘り、其の夫、主イエス小供一人の食糧を五つ、パンを以て五千人を養ひ、食べた残り、十二の籃に滿たせし、其の事、一、神は昔より今も與り給はぬ、旧約聖書勅諭聖書共に神の御旨に依りて食はれた事、主イエス曰く、給ふ我は眞のパンなり、我が肉を食ひ、其血を飲む者は永遠の生命を持つ、パンと會ひ、水と飲めば、主の救ひを成し入る事か、信仰する者の心密である、主の御旨である、其血の糧を神の福音を人々に分與すれば、其の理已か持て、神の恵みは益々多く成りて餘りがある、御恵みに充たれる事は今日我等経験するところである。

○青年部諸集會

禮拜 十日午前十一時 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

○青年聯合集會(十日) 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

○青年祈禱會(十日) 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

○青年祈禱會(十日) 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

○青年祈禱會(十日) 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

○青年祈禱會(十日) 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

○青年祈禱會(十日) 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

○青年祈禱會(十日) 教会
 司會 坂上 牧師
 祝 詞 ギヤロット師
 「結婚せよとする人々」

